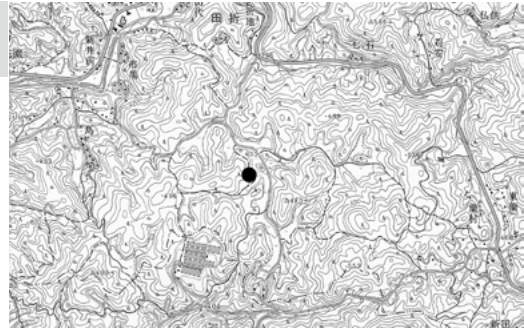


トヨガ下遺跡^{した}

所在地 豊田市下山田代町字トヨガ下
(北緯35度15分7秒 東経137度14分46秒)
調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業
調査期間 平成24年6月1日～平成24年12月28日
調査面積 3,800 m²
担当者 宮腰健司・武部真木・蔭山誠一



調査地点 (1/2.5万「東大沼」)

調査の経過 調査は、愛知県企業庁による豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う発掘調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成24年6月1日～12月28日の期間で実施した。調査対象地の現況は旧水田耕作地などの平場と緩斜面に植林された山林となっており、A区・B区の2カ所に調査区を分けて設定し、調査を行った。

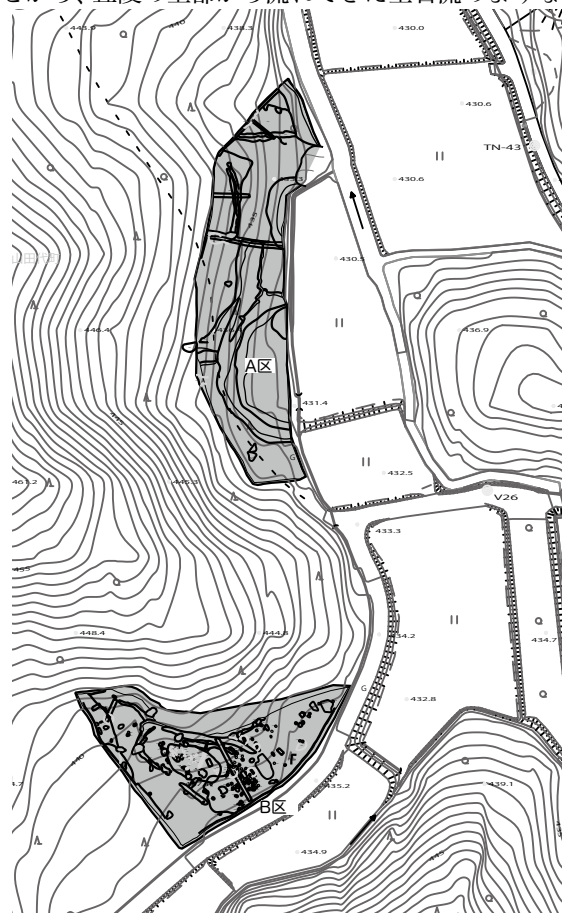
立地と環境 トヨガ下遺跡は豊田市下山田代地内にて郡界川に合流する沖川の西岸丘陵部に位置しており、A区の東に面して流れる沖川を挟んで東に猪移り遺跡がある。調査地点の標高は432～448mである。

調査の概要 調査の結果、A区において縄文時代前半期の流路跡1条、中世から近世にかけての道1条・溝1条、近世後半以後の炭焼窯跡3基を確認した。注目されるのはA区北端部でみつかった縄文時代前半期の流路跡で、泥質凝灰岩やチャートの剥片が出土した。埋土は拳大から人頭大の礫が多くはいる砂礫層であることから、丘陵の上部から流れてきた土石流のような堆積と考えられた。

B区はA区から南へ尾根を超えた側の南向き斜面であり、古代の流路跡1条と古代の包含層(焼土)、中世から近世の溝4条とピット群、炭焼窯跡5基を確認した。古代の遺物では灰釉陶器碗・皿と小瓶、土師器甕などがあり、流路のある谷の上流部から流れてきたものと考えられる。そのほか石器剥片、弥生時代前期の条痕文系土器などが出土している。(蔭山誠一)



調査区全景



トヨガ下遺跡全体図 (1:2,000)



A区全景(東より)



A区010SX(北東より)



B区全景(西より)



B区古代の包含層



B区古代の土坑



B区焼土を含む土坑



B区墨書のある灰釉陶器碗



B区古代流路跡007NR